

阪神高速道路の検討状況

2023年8月28日
阪神高速道路株式会社

阪神高速道路の検討状況

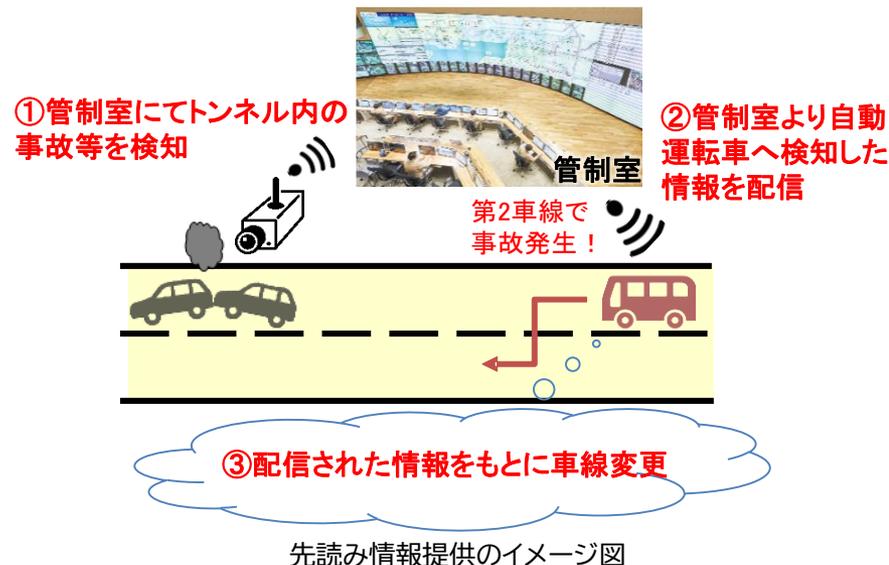
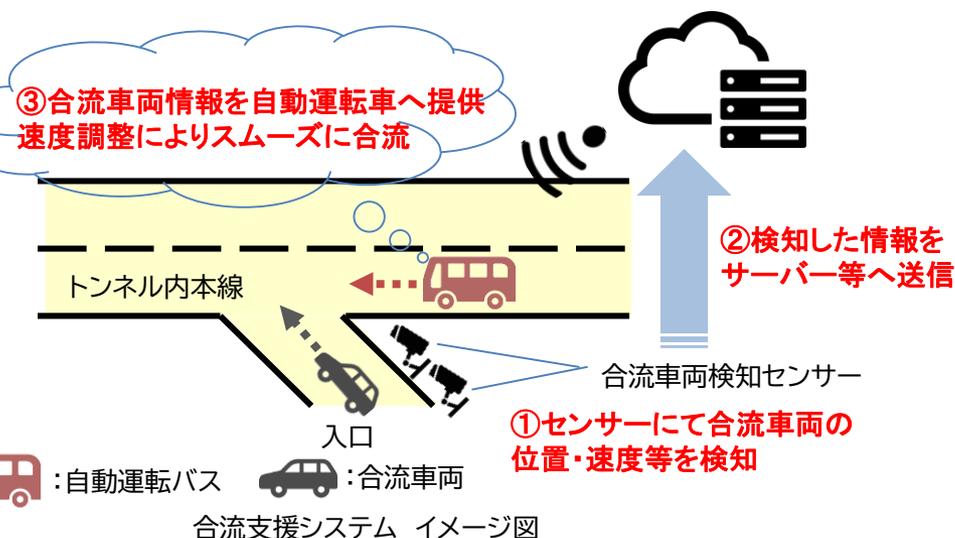
○今後の自動運転車の拡大、将来の完全自動運転化を見据え、大阪・関西万博会場へのシャトルバスアクセスルートにおいて、関係機関とともに、バス事業者が行う自動運転車の走行を支援するため、阪神高速道路上での合流支援システム・先読み情報提供等による情報提供を実施

□ 合流支援システム

- 自動運転車から認識できない本線やランプを走行する合流車両の位置・速度等をセンサーで検知し、自動運転車に提供することで、自動運転車が安全に合流できるよう支援する。

□ 先読み情報提供

- 管制室で把握しているトンネル内の車線別路上障害情報（事故・故障車等）を自動運転バスに配信し、余裕を持った車線変更が行えるよう支援する。



- ・合流支援システムや先読み情報提供による走行支援内容や仕様等についてはバス事業者等の関係者と調整中。位置情報提供(特殊区画線、磁気マーカー等)の適用については調整中。
- ・2023年12月までに実験内容の検討、各実験機器の仕様検討、2024年1月以降は各実験機器の調達・設置を行う予定。その後、事前走行試験を実施予定。
- ・2023年4月の社長会見において、「自動運転者における合流支援技術等の実装」を発表(資料は次ページ)。

2023.4.21社長会見資料

大阪・関西万博での取組 未来社会の実験場での挑戦（1）



自動運転車における合流支援技術等の実装

- 大阪・関西万博会場へのシャトルバスアクセスルートとなる淀川左岸線を含む経路での自動運転バスの実装に向けた協議等がなされているところ
- 阪神高速がこれまで培ってきた画像処理技術の活用により、自動運転車から認識できない本線やランプを走行する車両の位置・速度等をデータ化、自動運転車に提供することで、自動運転車が安全に合流できるよう支援する合流支援技術について、バス事業者と協力し、実装を目指します

○シャトルバス運行ルート案と自動運転実装に向けての方針

※大阪市自動運転バス実装協議会資料より



本協議会における自動運転実装に向けての方針
 ①「新たな技術やシステム」を積極的に実証し社会実装につなげる
 ②「都市交通の未来社会」のワクワク感、未来感を体験できるよう、創発工夫を促す
 ③「安全確保」に十分配慮し実装する



○阪神高速における合流支援システムの実装

今後の自動運転車の拡大、将来の完全自動運転化を見据え、大阪・関西万博会場へのシャトルバスアクセスルートにおいて、関係機関とともに、運行事業者が行う自動運転車の走行実装に対し、実装に関する調整を実施するほか、合流支援システムによる情報提供を実施



出典：国土技術政策総合研究所HP